

The background of the slide is a reproduction of Leonardo da Vinci's 'The Last Supper' fresco. It depicts Jesus Christ seated at the center of a long table with twelve apostles in a room with a grid-patterned ceiling and arched windows. The scene is dimly lit, with light coming from the windows behind the figures.

西洋美術史ゼミ

第10回

バロック美術

発表者 あまずん

発表者について

あまずん

Twitter : @quii_w (メイン)

@amazuunsc (サブ)

理系の大学生 (数学専攻) をやっています。

近代以降の美術史や思想史、現代美術について
興味があります。



ゼミについて

- 週1回程度で美術出版社「増補新装 カラー版 西洋美術史」を一章ずつ読み進め、内容をまとめ発表します。
- また、高校世界史に沿う形で当時の出来事についても説明します。
- そのため、世界史と美術史を同時に学ぶことができるため、歴史が好きな方も美術が好きな方も学びを深めることができます。



前回の内容

- 16世紀のネーデルラント美術では、アントワープを中心としてマサイス、ボス、ブリュッゲルが活動した。
- ルターやカルヴァンによって宗教改革が起こり、主権国家の形成を促進した。
- ドイツではデューラーによりルネサンスが興り、絵画と版画が盛んに制作された。



ブリュッゲル 《バベルの塔》

本日の内容

世界史について

- 主権国家の成立

美術について

- バロック美術

本日の内容

- **世界史：主権国家の成立**
- 世界史：17～18世紀のヨーロッパ文化
- 美術史：バロック美術

全体の概略

- 近世では宗教的な権威が動揺し、諸国が自国の利害を求めて戦争を繰り返した。このような状況下で、各国は徴税と常備軍の必要性を認識し、現代的な**主権国家の形成**が進んだ。
- 美術では、対抗宗教改革の影響を受け、カラヴァッジョの登場とともに劇的で動的な**バロック美術**が始まった。
- 今回は歴史がメインで、美術についてはバロックのさわりの部分のみを扱います。

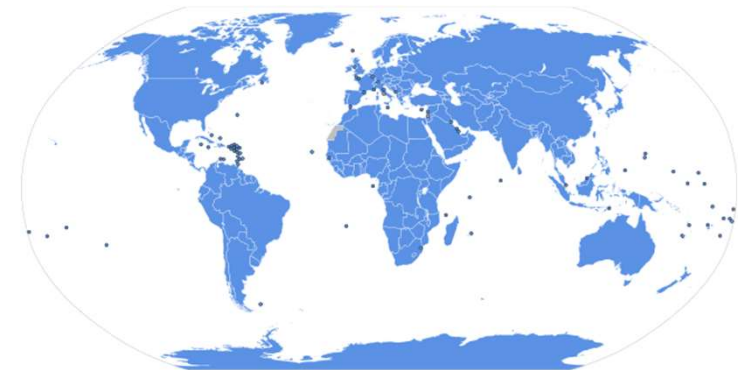
世界史：主権国家の成立まとめ

構成は以下の通りです。

- 主権国家の成立
- イタリア戦争
- スペイン
- オランダの独立
- フランス
- 17世紀の危機と三十年戦争
- 東ヨーロッパの新しい動き
- 17～18世紀の文化

主権国家の成立(1)

- 近世のヨーロッパでは、カトリック教会や神聖ローマ帝国が持っていた**普遍的権威が動揺**した。
- そして、諸国は自国の利害を求めて戦争と妥協を繰り返した。増大する**兵員と軍事費の調達**のために、各国は徴税気候や官僚制を整備し、**国内の統一的支配を強める**必要があった。
- この過程で多くの国は自らの支配領域を国境で囲み、**主権国家**が生まれた。



By Lateiner - Own work based on: BlankMap-World-Microstates.svg, source from UN (Taiwan: [1]), CC BY-SA 3.0, <https://commons.wikimedia.org/w/index.php?curid=3720474>

国連加盟国

主権国家の成立(2)

- 主権国家の形成期に、スペイン・フランス・イギリスなど、**絶対王政**と呼ばれる国王を中心とした強力な統治体制が生まれた。
- 絶対王政では**重商主義政策**が展開され、国家が積極的に経済活動に介入し、多くの官僚と常備軍を維持するための財政資金を獲得した。



エリザベス1世

イタリア戦争(1)

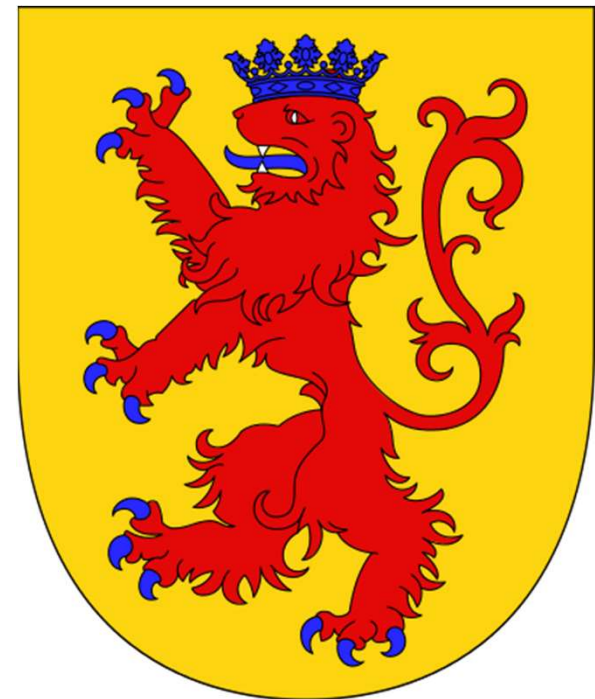
- 15世紀末以降、ヨーロッパの有力諸国は東方からオスマン帝国の圧力を受けるなかで、アメリカ大陸やアジアへの海外進出を競い合い、また領土や宗教を理由としてしばしば戦うこととなった。
- 1494年、**フランス王**がイタリアに侵入するとイタリア政策を行っていた**神聖ローマ帝国**がそれに敵対し、**イタリア戦争**が起こった。



不明（フランドルの画家） 《パヴィアの戦い》

イタリア戦争(2)

- 神聖ローマ帝国位を持つ**ハプスブルク家**とフランスの**ヴァロア家**の間の対立は、イタリアの小国家やローマ教皇だけではなく、イギリスなどイタリア外の国を巻き込んで16世紀半ばまで続いた。
- 両国は共倒れになり、1559年に戦争は終結したが、**ハプスブルク家とフランス王家の対立**は以後のヨーロッパにおける重要な対立軸となった。



投稿者自身による著作物, CC 表示-継承 3.0,
<https://commons.wikimedia.org/w/index.php?curid=2998639>による

ハプスブルク家の紋章

スペイン

- 各国の事例について見ていく。
- **スペイン**においては、**フェリペ2世**（在位1556～98）の時代に最盛期を迎え、オスマン帝国を**レパントの海戦**で破るなどしてアジア貿易を手中にし、「**太陽の沈まぬ国**」と呼ばれた。
- しかし、オランダ・イギリスなどの新興国の攻撃を受け、その力は低下していった。



アントニス・モル 《フェリペ2世》

オランダの独立(1)

- **ネーデルラント**では北部を中心にカルヴァン派が広まっていたが、占領していたフェリペ2世はカトリックを強制し、また重税を課した。
- その結果、スペインとの間で**独立戦争**（**オランダ独立戦争/八十年戦争**）が始まり、イギリスの支援もあり、**ネーデルラント連邦共和国**が独立した。
- 右の人物は独立戦争の指導者である。



アントニス・モル 《オラニエ公ウィレム1世》、

オランダの独立(2)

- 豊かなオランダが反乱を起こしたことは、スペインにとって大きな打撃だった。
- さらに、独立を支援した**イギリス**を攻撃するため、スペインは1588年に**無敵艦隊**を送った（**アルマダの海戦**）が、イギリス海軍に敗れ制海権を奪われた。



フィリップ・ジェイムズ・
ド・ラウザーバーク 《無敵艦隊の敗北》

イギリスの海外進出

- イギリスの王権は**テューダー朝**のもとで強化され。**エリザベス1世**のもとで新教国としての国民意識が形成され、全盛期を迎えた。
- イギリスでは、領主や地主が農地を農民から取り上げて牧場にする**囲い込み**が行われ、毛織物工業が国民産業となった。1600年の**東インド会社**設立はこれを背景としている。



エリザベス1世

フランス(1)

- フランスではユグノー（フランスのカルヴァン派）が勢力を強め、カトリックとの対立が深刻化していた。
- この状況下で、新旧両派や貴族間の対立が絡んだユグノー戦争（1562～98）が起こった。
- この戦争は、ユグノーの指導者アンリ4世が即位しブルボン朝を開くと、彼はカトリックに改宗し、ナントの王令でユグノーに信仰の自由を認めさせて終結した。



アンリ4世

フランス(2)

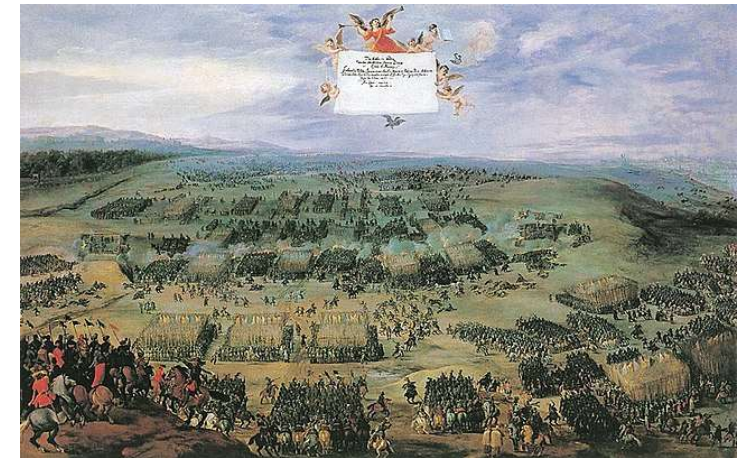
- **ルイ13世**の時代（在位1610～43）、王権に抵抗するユグノーや大貴族を抑圧しており、ルイ14世（在位1643～1715）が即位した後も王権強化に反対する貴族の反乱を鎮圧した。
- ルイ14世は「**太陽王**」と呼ばれ、**ヴェルサイユ宮殿**を建造し華やかな宮廷生活を営んだものの、経済政策や侵略戦争の失敗により、フランスの財政は悪化していった。



ルイ14世

17世紀の危機と三十年戦争(1)

- 17世紀前半に、16世紀から続いていた経済成長がとまり、ヨーロッパは**凶作、布教、疫病、人口の停滞、減少**などに見舞われた。
- 多くの国で戦争や反乱が起こったが、なかでも**ドイツ**の危機は深刻で、**三十年戦争**と呼ばれる、外国も介入する大規模な戦乱という形をとって現れた。



スナイエルス 《白山の戦い》

17世紀の危機と三十年戦争(2)

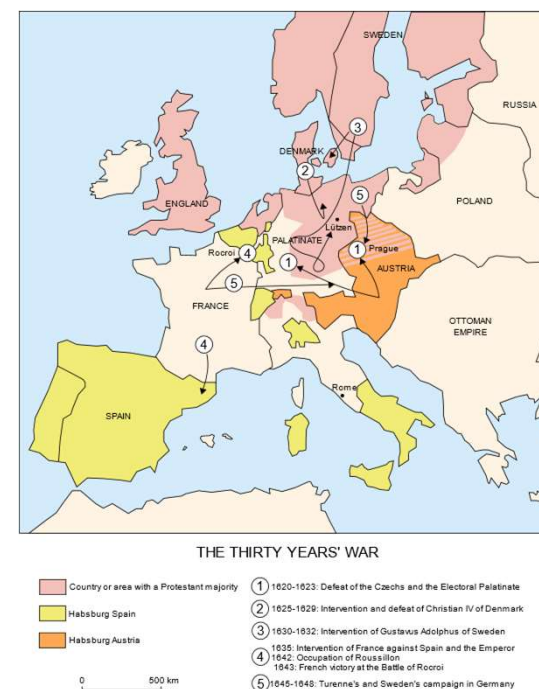
- **新旧両派の宗教対立**はアウクスブルク宗教和議（諸侯はカトリック派とルター派の選択可能）の後も続いていた。
- 1618年、ボヘミア（現在のチェコ）で**新教徒がハプスブルク家のカトリック政策に対抗**して反乱を起こし、**三十年戦争**が起こった。
- 戦争の原因は**宗教対立**だったが、後半はヨーロッパの覇権をめぐる**国際戦争に発展した**。



ジャック・カロ 《戦争の惨禍》

17世紀の危機と三十年戦争(3)

- 三十年戦争の主な対立軸は**ハプスブルク家対フランス**であり、ドイツを中心に起こった。これは最後にして最大の宗教戦争であった。
- **ウェストファリア条約**によって終結したこの戦争であったが、結果ドイツは荒廃し、神聖ローマ帝国が事実上解体され、**プロイセン**と**オーストリア**という主権国家が形成された。

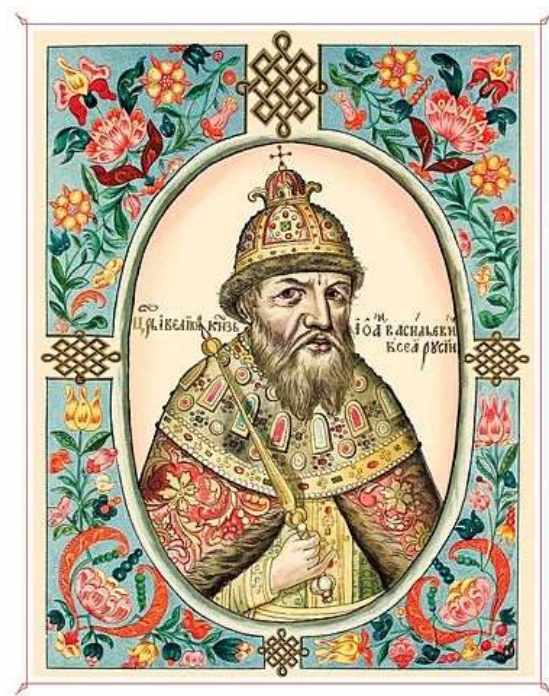


Map_Thirty_Years_War-fr.svg: [historicaiderivative work: P. S. Burton \(talk\) - Map_Thirty_Years_War-fr.svg, CC 表示-継承 3.0, https://commons.wikimedia.org/w/index.php?curid=12088443](https://commons.wikimedia.org/w/index.php?curid=12088443)による

三十年戦争の勢力図

東ヨーロッパの新しい動き

- 三十年戦争が終わると**プロイセン**が急激に成長した。
- プロイセンは17世紀初めに成立することになるが、それに先立つ15～16世紀は**ユンカー**と呼ばれる領主層が農民支配を強化した。
- ロシアでは、**雷帝**と呼ばれた**イヴァン4世**が中央集権化を進め、絶対王政の基礎を作った。その後、ミハイル＝ロマノフが即位し**ロマノフ朝**が成立した。



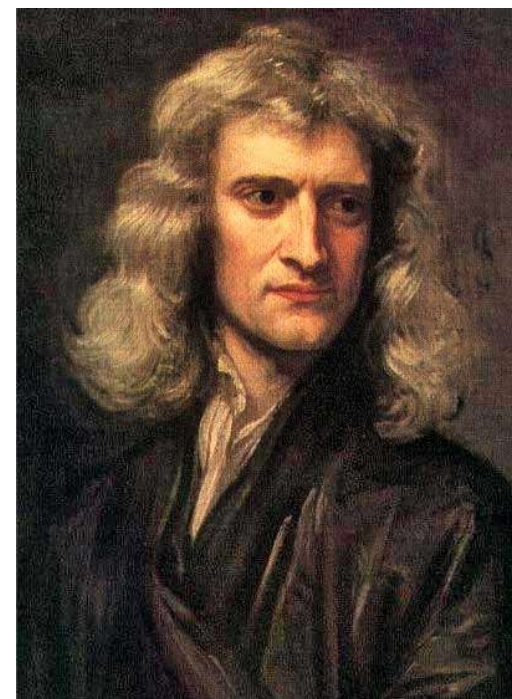
イヴァン4世

本日の内容

- 世界史：主権国家の成立
- **世界史：17～18世紀のヨーロッパ文化**
- 美術史：バロック美術

17～18世紀の文化：科学

- 多少時代は前後するが、17世紀～18世紀の文化について触れる。
- 科学において、**ニュートン**の万有引力の発見をはじめとする新たな発見や探求が行われた。
- ニュートン以外の主な科学者に
 1. **ボイル**（ボイルの法則）
 2. **ライプニッツ**（微積文学）
 3. **リンネ**（分類学）などがある



アイザック・ニュートン

17～18世紀の文化：哲学

- 自然科学が主張する**科学的真理**は、中世以来の宗教的な真理観とは異質なものであった。そこで、哲学者は科学的真理を基礎づける努力を行った。
- 主な思想は以下である。
 1. **経験論**（ベーコン、ロック）
 2. **合理論**（デカルト、スピノザ、ライプニッツ）
 3. **啓蒙思想**（ヴォルテール、ディドロ）
 4. **ドイツ観念論**（カント）



ルネ・デカルト

17～18世紀の文化：社会科学

- 社会科学においても多くの発展があった。
- 1. **王権神授説** (ボシュエ)
- 2. **自然法思想** (グロティウス『戦争と平和の法』)
- 3. **社会契約論** (ホッブス、ロック、ルソー)
- 4. **経済理論** (アダム＝スミス『国富論』)



アダム・スミス

17～18世紀の文化：芸術・文学

- 芸術においては、**バロック芸術**と**ロココ美術**が展開された。
- バロックは**豪華で華麗**なもので、**ルーベンス**、**ベラスケス**、**レンブラント**、**フェルメール**が活躍した。また、音楽においては**バッハ**や**ヘンデル**が活動し、建築では**ヴェルサイユ宮殿**が建設された。
- **ロココ美術**は**繊細で優雅**なものであった。



フェルメール 《牛乳を注ぐ女》

17～18世紀の文化：文学

- 最後に、文学について触れる。
- フランスでは、ルイ14世紀の時代に規則と調和を重視する**古典主義**が生まれた。
- イギリスでは**ミルトン**の『**失楽園**』や、**デフォー**の『**ロビンソン・クルーソー**』、**スウィフト**の『**ガリヴァー旅行記**』が書かれた。



《デフォーの肖像画》

本日の内容

- 世界史：主権国家の成立
- 世界史：17～18世紀のヨーロッパ文化
- **美術史：バロック美術**

バロック美術とは何か

- 17世紀の美術は**バロック美術**と呼ばれる。その由来は定かではないが、後世の18世紀では「**規範からの逸脱**」を意味して用いられていた。
- バロック美術の特徴は**動的で劇的**な様式である。
- **現実への関心**が強まり、宗教画や神話画がより現実的な表現を取るようになったばかりではなく、**風俗画や風景画、静物画**など現実に密着した絵画ジャンルが成立した。



レンブラント 《夜警》

イタリアのバロック美術(1)

- バロック美術が花開き、円熟したのはイタリアのローマであった。
- 16世紀の**カトリック改革**の影響による美術の改革と振興はバロック様式へと成長し、その後この様式は西洋中に広がることになる。
- **閉鎖的な宮廷**で営まれたルネサンス美術に対し、**外に拡張する運動性**をはらんでいたバロック美術は最も西洋らしい美術ともいえる。



カラヴァッジョ 《ホロフェルネスの首を斬るユーディット》

イタリアのバロック美術(2)

- イタリアについては以下の通りに展開していくが、今回は②まで扱う。
- ① カトリック改革（対抗宗教改革）
- ② カラヴァッジョ
- ③ カラッチとボローニャ派
- ④ 盛期バロックと天井画
- ⑤ ベルニーニとボロニーニ（建築）



カラヴァッジョ 《ロザリオの聖母》

対抗宗教改革(復習)

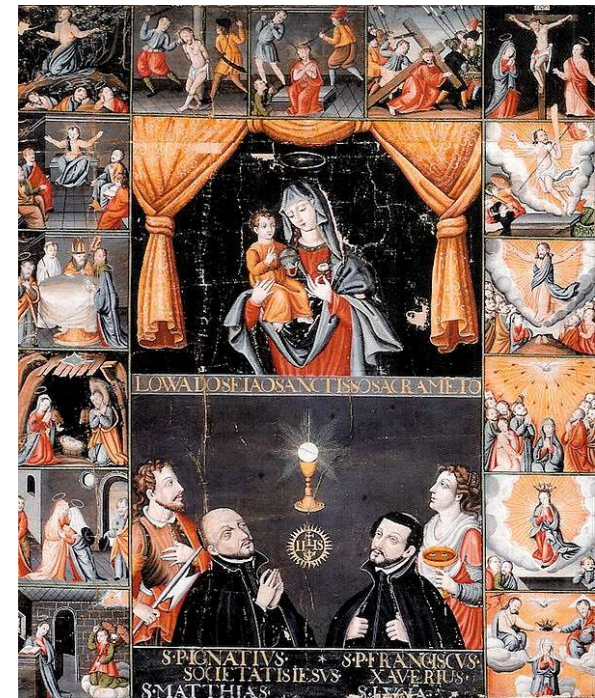
- 宗教改革の進展を前に、**カトリック教会**は教義の明確化と内部革新を通じて教会を立て直そうとした。
- 1534年に**イグナティウス=ロヨラ**や**フランシスコ=ザビエル**らによって**イエズス会**が結成された。この会は教皇の許可を受け、海外でも積極的な宣教を行っている。
- また、この時代は新旧教徒の対立の激化から**魔女狩り**も行われた。



フランシスコ=ザビエル

カトリック改革(1)

- 16世紀初頭に起こった**宗教改革**は宗教美術を偶像視して禁止し、新教国では**イコノクラスム**の嵐が吹き荒れた。
- これに対して、カトリック側は**理性よりも感情に訴えて**信仰心を昂揚させようとした。そして、古い図像が復活するとともに、新たな図像が生み出されるようになった。



《マリア十五玄義図》

カトリック改革(2)

- さらに、**1600年の聖年**は文化的に大きな転換点となった。**カタコンベ**が発見され、初期の教会史が編纂されるなどして**初期キリスト教時代の文化と歴史が見直された**。
- こうした状況下で、古刹が修復されたり、新しい教会が建設されるなかで、大規模な事業を目当てに**多くの芸術家がローマに集まった**。そして、様々な伝統が混ざり合い、壮麗なバロック美術が生まれたのである。



I, Alejo2083, CC 表示-継承 3.0,
<https://commons.wikimedia.org/w/index.php?curid=2449146>による

《イル・ジェズ聖堂》

カラヴァッジョ(1)

- 16世紀後半、カトリック改革が進むと、多くの聖堂や宮殿が建設され、美術の需要が高まった。
- しかし、当時のローマ画壇はマニエリスムが席卷しており、**概して個性に乏しかった。**
- こうしたなかで、**写実性と劇的な明暗対比**と特徴とする**カラヴァッジョ**の登場は非常な衝撃を与えた。



レオーニ 《カラヴァッジョの肖像画》

カラヴァッジョ(2)

- カラヴァッジョは**風俗画**を描いたばかりでなく、宗教画の人物をも**現実感あふれる庶民の姿**で表した。
- 『**聖マタイの召命**』がこの様式で描かれた絵画で最も有名なもので、**写実的な描写と強烈な明暗対比**が組み合わさったこの絵画は大きく評判になった。この作品はバロック美術の扉を開いた記念碑的な作品でもある。



カラヴァッジョ 《聖マタイの召命》

カラヴァッジョ(3)



カラヴァッジョ 《果物籠を持つ少年》



カラヴァッジョ 《キリストの捕縛》

カラヴァッジョ(4)

- カラヴァッジョは短い活動期間に甚大な影響を与え、多くの追従者を生み出した。
- 彼の模倣者は**カラヴァッジェスキ**と呼ばれ、彼の写實的把握と劇的な明暗対比を多くの地域に広めた。
- 著名なカラヴァッジェスキとして、**オラツィオ・ジェンティレスキ**がいる。



オラツィオ 《リュートを弾く娘》

本日のまとめ

- 宗教的な普遍的権力が動揺し、経済的・軍事的な重要性から**主権国家が形成**され始めた。
- そのような状況下で新教と旧教の対立による**三十年戦争**が始まり、次第に大規模な戦争に発展していった。
- **カラヴァッジョ**の登場により、劇的で動的な**バロック美術**の扉が開いた。



カラヴァッジョ 《聖マタイの召命》

次回の内容

- 次回はバロック美術・ロココ美術について扱います。カラヴァッジョの登場以後、国際的に広まったバロック美術は様々な発展し、ベラスケスやルーベンス、レンブラントやフェルメールのような著名な画家が活動することとなります。
- 関連ワード
 1. ベラスケス 『ラス・メニーナス』
 2. レンブラント 『夜警』



ベラスケス 『ラス・メニーナス』